(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2008-9815
(P2008-9815A)
(43)公開日　平成20年1月17日(2008.1.17)

(51)Int.Cl.			F I			テーマコード（参考）
G06F	3/048	(2006.01)	G06F	3/048	655A	5B069
G06F	3/14	(2006.01)	G06F	3/14	350A	5C076
H04N	1/387	(2006.01)	H04N	1/387		5C082
G09G	5/377	(2006.01)	G09G	5/36	520M	5E501
G09G	5/00	(2006.01)	G09G	5/00	550B	

審査請求 未請求　請求項の数 8　ＯＬ　（全 11 頁）　最終頁に続く

(21)出願番号　特願2006-180913 (P2006-180913)
(22)出願日　平成18年6月30日 (2006.6.30)

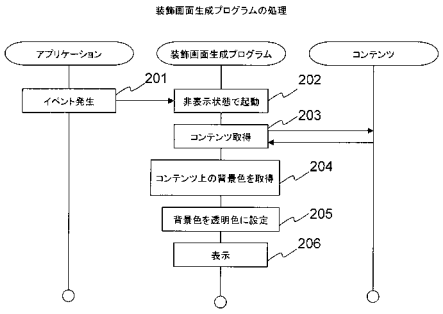
(71)出願人　000233055
日立ソフトウエアエンジニアリング株式会社
東京都品川区東品川四丁目１２番７号
(74)代理人　100088720
弁理士　小川　眞一
(72)発明者　黒岩　直也
東京都品川区東品川４丁目１２番７号　日立ソフトウエアエンジニアリング株式会社内

Ｆターム(参考)　5B069 AA01 AA14 CA15 DD15 HA07
5C076 AA12 AA14 AA16 AA26
5C082 AA01 AA27 BA02 BA12 BA27
CA01 CA56 DA42 DA86 DA89
MM02

最終頁に続く

(54)【発明の名称】装飾画面表示方法及びプログラム

(57)【要約】
【課題】　アプリケーションプログラムが表示するウインドウに対して重ね合わせ表示する装飾画面をアプリケーションプログラムを再構築することなく、自由に変更して表示すること。
【解決手段】　アプリケーションプログラムから予め設定された装飾画面表示用のイベント発生通知を受けた場合に、装飾画面を非表示状態で起動し、アプリケーションプログラムのウインドウの表示内容を装飾する装飾用コンテンツを予め設定されたリソースから取得して展開した後、その装飾用コンテンツの背景色を透明色に変更して透過型の装飾画面を生成し、アプリケーションプログラムが表示装置に表示するウインドウの前面に重畳して表示する。
【選択図】　図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
任意のアプリケーションプログラムによって構成されるデータ処理手段が表示装置に表示するウインドウの前面に、当該ウインドウの表示内容を装飾する文字等の装飾画面を重畳して表示する装飾画面表示方法であって、
前記データ処理手段が、予め設定された装飾画面表示用のイベント発生時に、前記装飾画面を生成する装飾画面生成手段に対し、当該イベントの発生を通知する第１のステップと、
前記イベントの発生通知を受けた前記装飾画面生成手段が、装飾画面を非表示状態で起動し、前記データ処理手段のウインドウの表示内容を装飾する装飾用コンテンツを予め設定されたリソースから取得して展開した後、その装飾用コンテンツの背景色を透明色に変更して透過型の装飾画面を生成し、前記データ処理手段が表示装置に表示するウインドウの前面に重畳して表示する第２のステップを備えることを特徴とする装飾画面表示方法。
【請求項２】
前記装飾画面生成手段は、前記リソースから取得した装飾用コンテンツ中に、次回のイベント発生時におけるリソースの指定情報が設定されていた場合には、当該リソースの指定情報を保持し、次回のイベント発生時には当該指定情報で指定されたリソースから装飾用コンテンツを取得することを特徴とする請求項１に記載の装飾画面表示方法。
【請求項３】
前記装飾画面生成手段は、透過型の装飾画面を生成した後、当該装飾画面を表示する期間を定めるタイムアウト値を装飾用コンテンツ中から取得してタイマに設定して起動し、そのタイムアウト値で設定された期間の満了時に装飾画面の表示を終了することを特徴とする請求項１または２に記載の装飾画面表示方法。
【請求項４】
前記装飾画面生成手段は、Ｗｅｂブラウザで構成されるものであることを特徴とする請求項１～３のいずれか１項に記載の装飾画面表示方法。
【請求項５】
任意のアプリケーションプログラムによって構成されるデータ処理手段が表示装置に表示するウインドウの前面に、当該ウインドウの表示内容を装飾する文字等の装飾画面を重畳して表示するための装飾画面表示プログラムであって、
前記データ処理手段から予め設定された装飾画面表示用のイベント発生通知を受けた場合に、装飾画面を非表示状態で起動し、前記データ処理手段のウインドウの表示内容を装飾する装飾用コンテンツを予め設定されたリソースから取得して展開した後、その装飾用コンテンツの背景色を透明色に変更して透過型の装飾画面を生成し、前記データ処理手段が表示装置に表示するウインドウの前面に重畳して表示する処理をコンピュータに実行させるステップを備えることを特徴とする装飾画面表示プログラム。
【請求項６】
前記リソースから取得した装飾用コンテンツ中に、次回のイベント発生時におけるリソースの指定情報が設定されていた場合には、当該リソースの指定情報を保持し、次回のイベント発生時には当該指定情報で指定されたリソースから装装飾用コンテンツを取得するステップを備えることを特徴とする請求項１に記載の装飾画面表示プログラム。
【請求項７】
透過型の装飾画面を生成した後、当該装飾画面を表示する期間を定めるタイムアウト値を装飾用コンテンツ中から取得してタイマに設定して起動し、そのタイムアウト値で設定された期間の満了時に装飾画面の表示を終了させるステップを備えることを特徴とする請求項５または６に記載の装飾画面表示プログラム。
【請求項８】
前記装飾画面表示プログラムは、Ｗｅｂブラウザで構成されるものであることを特徴とする請求項５～７のいずれか１項に記載の装飾画面表示プログラム。
【発明の詳細な説明】

【技術分野】
【０００１】
本発明は、任意のアプリケーションプログラムによって構成されるデータ処理手段が表示装置に表示するウインドウの前面に当該ウインドウの表示内容を装飾する文字、画像等の装飾画面を重畳して表示する装飾画面表示方法及びプログラムに関するものである。
【背景技術】
【０００２】
各種の業務処理用アプリケーションプログラムにおいては、当該アプリケーションプログラムに固有のウインドウを表示装置に表示し、このウインドウ中のツールバーやアイコンに設定された機能を選択しながら必要な入力処理、編集処理、出力処理等を行うようにしている。
このような処理を進めている過程で、特定の操作イベントが行われた場合には、例えば注意を促すメッセージ、あるいはアプリケーションプログラムのウインドウの表示内容を装飾する絵柄等を表示させたい場合がある。
これらのメッセージ、あるいは絵柄等を表示させる場合、ポップアップ画面を別ウインドウで表示することが考えられる。
【０００３】
ところが、ポップアップ画面はアプリケーションプログラムのウインドウの前面に表示されるため、アプリケーションプログラムのウインドウの一部が隠蔽されてしまい、アプリケーションプログラムのウインドウを見ながら操作することができなくなるという問題がある。
そこで、下記の特許文献１に開示されているように、アプリケーションプログラムの第１ウインドウの前面に重ねて表示する第２ウインドウについては、第２ウインドウの背景色を透明色に設定して重ね合わせ表示する表示方法を採用することが考えられる。
【０００４】
【特許文献１】特開平７－８４７４３号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、上記特許文献１に開示されたウインドウ表示方法にあっては、第２ウインドウに表示する内容を変更する場合、アプリケーションプログラム中で第２ウインドウに表示する内容を指定する部分を再構築しなければならなくなり、重ね合わせ表示する第２ウインドウの表示内容の変更に際して再構築費用か発生したうえ、容易に対応できないという問題がある。
【０００６】
本発明は、このような事情に鑑み、アプリケーションプログラムが表示するウインドウに対して重ね合わせ表示する装飾画面を重ねあわせ対象のウインドウを表示するアプリケーションプログラムを再構築することなく、自由に変更して表示することが可能な装飾画面表示方法及びプログラムを提供することを目的とするものである。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
上記目的を達成するために、本発明に係る装飾画面表示方法は、任意のアプリケーションプログラムによって構成されるデータ処理手段が表示装置に表示するウインドウの前面に、当該ウインドウの表示内容を装飾する文字等の装飾画面を重畳して表示する装飾画面表示方法であって、
前記データ処理手段が、予め設定された装飾画面表示用のイベント発生時に、前記装飾画面を生成する装飾画面生成手段に対し、当該イベントの発生を通知する第１のステップと、前記イベントの発生通知を受けた前記装飾画面生成手段が、装飾画面を非表示状態で起動し、前記データ処理手段のウインドウの表示内容を装飾する装飾用コンテンツを予め設定されたリソースから取得して展開した後、その装飾用コンテンツの背景色を透明色に

変更して透過型の装飾画面を生成し、前記データ処理手段が表示装置に表示するウインドウの前面に重畳して表示する第２のステップを備えることを特徴とする。

また、前記装飾画面生成手段は、前記リソースから取得した装飾用コンテンツ中に、次回のイベント発生時におけるリソースの指定情報が設定されていた場合には、当該リソースの指定情報を保持し、次回のイベント発生時には当該指定情報で指定されたリソースから装飾用コンテンツを取得することを特徴とする方法。

また、前記装飾画面生成手段は、透過型の装飾画面を生成した後、当該装飾画面を表示する期間を定めるタイムアウト値を装飾用コンテンツ中から取得してタイマに設定して起動し、そのタイムアウト値で設定された期間の満了時に装飾画面の表示を終了することを特徴とする。

また、前記装飾画面生成手段は、Ｗｅｂブラウザで構成されるものであることを特徴とする。

【０００８】

本発明に係る装飾画面表示プログラムは、任意のアプリケーションプログラムによって構成されるデータ処理手段が表示装置に表示するウインドウの前面に、当該ウインドウの表示内容を装飾する文字等の装飾画面を重畳して表示するための装飾画面表示プログラムであって、

前記データ処理手段から予め設定された装飾画面表示用のイベント発生通知を受けた場合に、装飾画面を非表示状態で起動し、前記データ処理手段のウインドウの表示内容を装飾する装飾用コンテンツを予め設定されたリソースから取得して展開した後、その装飾用コンテンツの背景色を透明色に変更して透過型の装飾画面を生成し、前記データ処理手段が表示装置に表示するウインドウの前面に重畳して表示する処理をコンピュータに実行させるステップを備えることを特徴とする。

また、前記リソースから取得した装飾用コンテンツ中に、次回のイベント発生時におけるリソースの指定情報が設定されていた場合には、当該リソースの指定情報を保持し、次回のイベント発生時には当該指定情報で指定されたリソースから装装飾用コンテンツを取得するステップを備えることを特徴とする。

また、透過型の装飾画面を生成した後、当該装飾画面を表示する期間を定めるタイムアウト値を装飾用コンテンツ中から取得してタイマに設定して起動し、そのタイムアウト値で設定された期間の満了時に装飾画面の表示を終了させるステップを備えることを特徴とする。

また、前記装飾画面表示プログラムは、Ｗｅｂブラウザで構成されるものであることを特徴とする。

【発明の効果】

【０００９】

本発明によれば、任意のアプリケーションプログラムによって構成されるデータ処理手段から予め設定された装飾画面表示用のイベント発生通知を受けた場合に、装飾画面を非表示状態で起動し、前記データ処理手段のウインドウの表示内容を装飾する装飾内容を予め設定されたリソースから取得して展開した後、その装飾内容の背景色を透明色に変更して透過型の装飾画面を生成し、前記データ処理手段が表示装置に表示するウインドウの前面に重畳して表示するため、重畳対象のウインドウの表示内容を隠蔽することなく装飾内容を表示することができ、また、装飾内容を変更する必要が生じた場合には、装飾内容を保持したリソースのみを変更するのみで容易に対処することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１０】

以下、本発明に係る装飾画面表示方法を適用した情報処理装置の一実施の形態について説明する。

図１は、本発明の実施形態の一例を示す構成図であり、パーソナルコンピュータ等で構成される処理装置１、その付属装置である入力装置２及び表示装置３、コンテンツファイル４で構成されている。

処理装置１は、ＣＰＵ１１、メモリ１２を内蔵し、メモリ１２には任意のアプリケーションプログラム１２１の他に、本発明の主要な構成である装飾画面生成プログラム１２２が記憶されている。

入力装置２は、キーボード２１、マウス２２から構成されている。

コンテンツファイル４には、ＨＴＭＬファイルとして作成されたコンテンツ(ＨＴＭＬコンテンツ)、装飾画面で使用する画像データ、音楽データなどのコンテンツが格納されている。

本実施の形態では、生成プログラム１２２は、いわゆるＷｅｂブラウザで構成されるものであるが、コンテンツファイル４を表示する機能を備えたプログラムであればプログラムの形態は問わない。

また、本実施の形態ではアプリケーションプログラムと装飾画面生成プログラムを別個の構成として記載しているが、アプリケーションプログラム内に装飾画面生成プログラムの機能を備えるように構成しても良い。

【００１１】

図２は、アプリケーションプログラム１２１が表示装置３に表示するウインドウに対して重畳表示する装飾画面生成プログラム１２２の処理を示すフローチャートである。

このフローチャートは、例えば、図３（ａ）に示すようなアプリケーションプログラム１２１のウインドウ３０１に対して、図３（ｂ）に示すような表示内容の装飾画面３０２を生成し、図３（ｃ）に示すように重畳表示させる場合の処理を示すものである。

まず、アプリケーションプログラム１２１は、装飾画面を表示させるための操作イベント、あるいは処理過程において装飾画面を表示させるため所定のイベントが発生したことを検出したならば（ステップ２０１）、このイベントが発生したこととコンテンツファイル４の場所を装飾画面生成プログラム１２２に通知する。

装飾画面生成プログラム１２２は、イベントの発生通知を受け、図３の装飾画面３０２を非表示状態で起動する（ステップ２０２）。

非表示状態で起動するとは、後述するステップ２０４において背景色を取得し、ステップ２０５において、背景色を透明に設定してから表示装置３に表示することを意味する。

【００１２】

次に、ウインドウ３０１の表示内容を装飾する装飾内容であるＨＴＭＬコンテンツを予め設定されたコンテンツファイル４から取得し、非表示状態の装飾画面３０２に展開（貼り付け）し（ステップ２０３）、次にそのＨＴＭＬコンテンツの背景色を取得し（ステップ２０４）、装飾画面３０２に展開したＨＴＭＬコンテンツの背景色を透明色に設定する（ステップ２０５）。

ＨＴＭＬコンテンツの背景色を透明色に設定することは、ＨＴＭＬコンテンツを展開した装飾画面３０２を透明に設定することを意味する。これにより、ＨＴＭＬコンテンツが展開された透過型の装飾画面３０２が生成される。

次に、その装飾画面３０２をウインドウ３０１の前面に重畳して可視化して表示する（ステップ２０６）。これにより、図３（ｃ）に示すような表示内容の装飾画面３０２がウインドウ３０１に重ね合わせ表示される。

なお、装飾画面３０２を表示する場合、ウインドウ３０１の現在の表示位置とサイズが一致するように、ウインドウ３０１の現在の表示位置とサイズをアプリケーションプログラムが属性として保持しているサイズと位置情報を得、その表示位置とサイズに装飾画面３０２の表示位置とサイズを一致させるように制御する。これは、ステップ２０６で行う。

オペレーティングシステム画面(デスクトップ画面)を装飾したい場合は、オペレーティングシステム(図示しない)から、画面サイズを取得して装飾画面をそのサイズで表示する。

【００１３】

以上の処理により、ウインドウ３０１に表示させる装飾内容を変更する必要が生じた場合、コンテンツファイル４に格納されたＨＴＭＬコンテンツを変更するのみで容易に対処

することができる。
　また、アプリケーションプログラム１２１が表示するウインドウ３０１に対して透過した状態で、コンテンツファイル４に格納された装飾用のＨＴＭＬコンテンツを表示させることができる。
【００１４】
　図４は、図３（ｂ）に例示した装飾画面３０２を予め設定したタイムアウト値で示される時間に満了後に表示終了とする場合の実施形態を示すフローチャートである。
　図４において、アプリケーションプログラム１２１は、装飾画面を表示させるための操作イベント、あるいは処理過程において装飾画面を表示させるため所定のイベントが発生したことを検出したならば（ステップ４０１）、このイベントが発生したことを装飾画面生成プログラム１２２に通知する。
　装飾画面生成プログラム１２２は、イベントの発生通知を受け、図２の装飾画面３０２を非表示状態で起動する（ステップ４０２）。
【００１５】
　次に、ウインドウ３０１の表示内容を装飾する装飾内容であるＨＴＭＬコンテンツを予め設定されたコンテンツファイル４から取得し、非表示状態の装飾画面３０２に展開（貼り付け）し（ステップ４０３）、次にそのＨＴＭＬコンテンツの背景色とタイムアウト値を取得し（ステップ４０４）、装飾画面３０２に展開したＨＴＭＬコンテンツの背景色を透明色に変更する（ステップ４０５）。
　ＨＴＭＬコンテンツの背景色を透明色に変更することは、ＨＴＭＬコンテンツを展開した装飾画面３０２を透明に設定することを意味する。これにより、ＨＴＭＬコンテンツが展開された透過型の装飾画面３０２が生成される。
【００１６】
　次に、タイマの値をＨＴＭＬコンテンツから取得したタイムアウト値に設定して起動し（ステップ４０６）、装飾画面３０２をウインドウ３０１の前面に重畳して可視化して表示する（ステップ４０７）。これにより、図３（ｃ）に示すような表示内容がウインドウ３０１に重ね合わせ表示される。
　装飾画面生成プログラム１２２は、タイマの値がタイムアウト値に一致したならば、装飾画面３０２の表示を終了する（ステップ４０８）。
　なお、装飾画面３０２を表示する場合、ウインドウ３０１の現在の表示位置とサイズが一致するように、ウインドウ３０１の現在の表示位置とサイズをアプリケーションプログラムが属性として保持しているサイズと位置情報を得、その表示位置とサイズに装飾画面３０２の表示位置とサイズを一致させるように制御する。これは、ステップ４０７で行う。
　オペレーティングシステム画面(デスクトップ画面)を装飾したい場合は、オペレーティングシステム(図示しない)から、画面サイズを取得して装飾画面をそのサイズで表示する。
　以上の処理により、図３のウインドウ３０１に重畳表示された装飾画面３０３は、図５（ｂ）に示すように、コンテンツ中に記述されたタイムアウト期間だけ表示され、ウインドウ３０１のみの表示となる。
【００１７】
　図６は、本発明の他の実施形態を示すフローチャートである。
ここで示す処理は、コンテンツファイル４から取得した装飾用ＨＴＭＬコンテンツ中に、次回のイベント発生時におけるリソースの指定情報が設定されていた場合には、当該リソースの指定情報を保持し、次回のイベント発生時には当該指定情報で指定されたリソースから装装飾用ＨＴＭＬコンテンツを取得するステップを付加したものである。
　図６において、アプリケーションプログラム１２１は、装飾画面を表示させるための操作イベント、あるいは処理過程において装飾画面を表示させるため所定のイベントが発生したことを検出したならば（ステップ６０１）、このイベントが発生したこととコンテンツファイル４の場所を装飾画面生成プログラム１２２に通知する。

装飾画面生成プログラム１２２は、イベントの発生通知を受け、図２の装飾画面３０２を非表示状態で起動する（ステップ６０２）。

【００１８】

次に、ウインドウ３０１の表示内容を装飾する装飾内容であるＨＴＭＬコンテンツを予め設定されたコンテンツファイルＡから取得し、非表示状態の装飾画面３０２に展開（貼り付け）し（ステップ６０３）、次にそのＨＴＭＬコンテンツの背景色と次回イベント発生時のリンク先（リソースの指定情報）値を取得し（ステップ６０４）、装飾画面３０２に展開したＨＴＭＬコンテンツの背景色を透明色に変更する（ステップ６０５）。

ＨＴＭＬコンテンツの背景色を透明色に変更することは、ＨＴＭＬコンテンツを展開した装飾画面３０２を透明に設定することを意味する。これにより、ＨＴＭＬコンテンツが展開された透過型の装飾画面３０２が生成される。

【００１９】

次に、ステップ６０４で取得したリンク先の情報を保持した後（ステップ６０６）、装飾画面３０２をウインドウ３０１の前面に重畳して可視化して表示する（ステップ６０７）。これにより、図３（ｃ）に示すような表示内容がウインドウ３０１に重ね合わせ表示される。

この状態で、アプリケーションプログラム１２１が次のイベントを検出し（ステップ６０８）、そのイベントの発生を装飾画面生成プログラム１２２に通知した場合、装飾画面生成プログラム１２２は、図２の装飾画面３０２を非表示状態で起動する（ステップ６０９）。

【００２０】

次に、ウインドウ３０１の表示内容を装飾する装飾内容であるＨＴＭＬコンテンツをステップ６０６で保持しておいたリンク先のコンテンツファイルＢから取得し、非表示状態の装飾画面３０２に展開（貼り付け）し（ステップ６１０）、次にそのＨＴＭＬコンテンツの背景色と次回イベント発生時のリンク先（リソースの指定情報）値を取得し（ステップ６１１）、装飾画面３０２に展開したＨＴＭＬコンテンツの背景色を透明色に変更する（ステップ６１２）。

これにより、ステップ６０６で指定されたリンク先のＨＴＭＬコンテンツが展開された透過型の装飾画面３０２が生成される。

【００２１】

次に、ステップ６１１で取得したリンク先の情報を保持した後（ステップ６１３）、装飾画面３０２をウインドウ３０１の前面に重畳して可視化して表示する（ステップ６１４）。

これにより、１回目のイベント発生時において図３（ｂ）の装飾画面を重畳表示したウインドウ３０３は、２回目のイベント発生により、図７（ｂ）のウインドウ３０４に示すように、次回イベント発生時のリンク先で指定されたＨＴＭＬコンテンツに対応したものに切り替わる。

以上の処理により、装飾画面の内容をＨＴＭＬコンテンツに記述するリンク先によってイベント発生毎に切替えることができる。

【００２２】

なお、本実施の形態では、コンテンツ上の背景色を取得する処理(たとえばステップ２０４)を行うようにしているが、予め透明にする背景色を定義しておくことで、コンテンツ上の背景色を取得する処理を省略するようにしても良い。

また、図６の処理において、図４に示したようにＨＴＭＬコンテンツ中にタイムアウト値を設定し、そのタイムアウト値で示される期間だけ装飾内容を表示するように構成することができる。

また、ＨＴＭＬコンテンツには、画像や音声のデータを埋め込むことができる。また、ＪａｖａＳｒｉｐｔ(登録商標）などのスクリプト言語により、画像のアニメーションに関する記述も埋め込むことができる。このＨＴＭＬコンテンツの機能を利用することにより、画像や音声、アニメーションを装飾内容とする装飾画面を生成して表示させることが

でき、文字、画像、音声、アニメーションを適宜に組み合わせたアプリケーションを構築することが可能になる。

また、本発明はＨＴＭＬコンテンツに限定されるものではなく、装飾画面生成プログラムが処理可能なコンテンツの形式であれば形式は問わない。たとえば、マークアップ言語によるコンテンツであればＳＧＭＬ、ＸＭＬなどにより作成されたコンテンツでも良い。

なお、リンク先の指定情報は、ネットワークで接続されたサーバ上に保持されたコンテンツファイルであっても良い。

また、図２、図４、図６で示した処理はコンピュータで実行可能なプログラムとして提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【００２３】

【図１】本発明の一実施の形態例を示す構成図である。

【図２】アプリケーションプログラムが表示装置に表示するウインドウに対して重畳表示する装飾画面生成プログラムの処理を示すフローチャートである。

【図３】図２の処理により装飾画面が重畳表示されウインドウの表示例を示す図である。

【図４】装飾画面を予め設定したタイムアウト値で示される時間満了後に表示終了とする場合の実施形態を示すフローチャートである。

【図５】図４の処理により、装飾画面がタイムアウト値で示される時間満了後に表示終了となる様子を示す説明図である。

【図６】本発明の他の実施形態を示すフローチャートである。

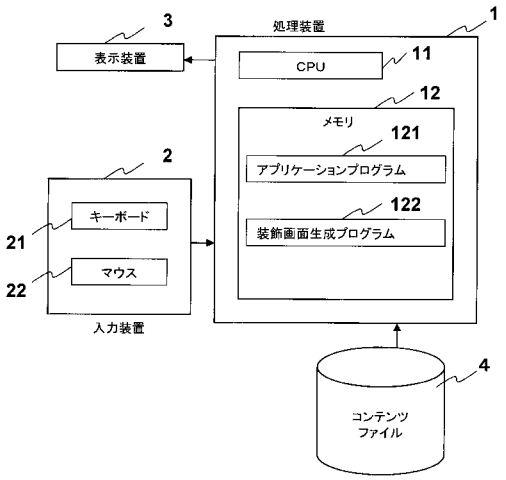
【図７】１回目のイベント発生時の装飾画面が２回目のイベント発生により切り替わる様子を示す説明図である。

【符号の説明】

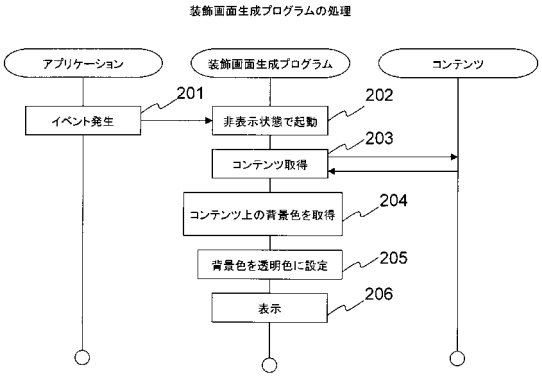
【００２４】

１…処理装置、１２…メモリ、１２１…アプリケーションプログラム、１２２…装飾画面生成プログラム、４…コンテンツファイル。

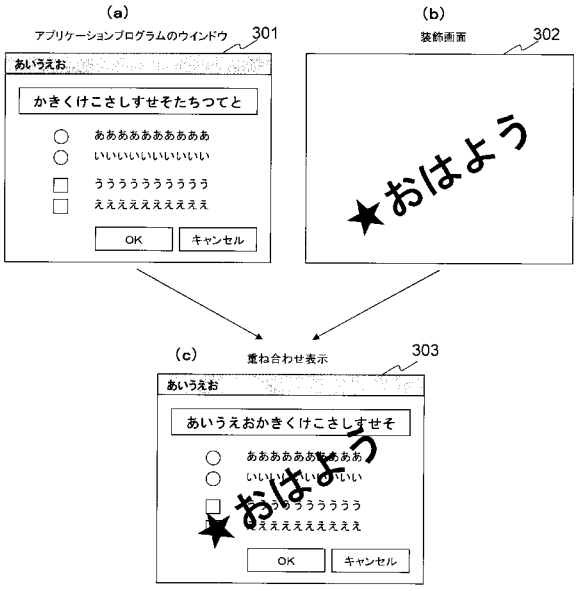
【図１】


3
表示装置
処理装置
1
CPU
11
12
メモリ
121
アプリケーションプログラム
122
装飾画面生成プログラム
2
キーボード
21
マウス
22
入力装置
4
コンテンツ
ファイル

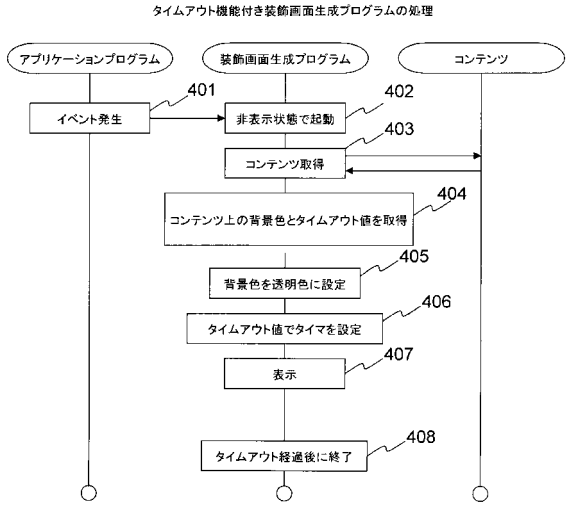
【図２】


装飾画面生成プログラムの処理
アプリケーション
装飾画面生成プログラム
コンテンツ
201
イベント発生
202
非表示状態で起動
203
コンテンツ取得
204
コンテンツ上の背景色を取得
205
背景色を透明色に設定
206
表示

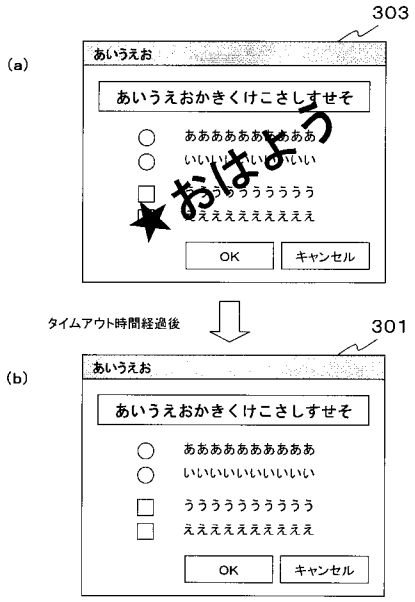
【図３】


(a)
アプリケーションプログラムのウインドウ
301
あいうえお
かきくけこさしすせそたちつてと
ああああああああああ
いいいいいいいいいい
うううううううううう
えええええええええ
OK
キャンセル
(b)
装飾画面
302
★おはよう
(c)
重ね合わせ表示
303
あいうえお
あいうえおかきくけこさしすせそ
ああああああああああ
いいいいいいいいいい
うううううううううう
えええええええええ
★おはよう
OK
キャンセル

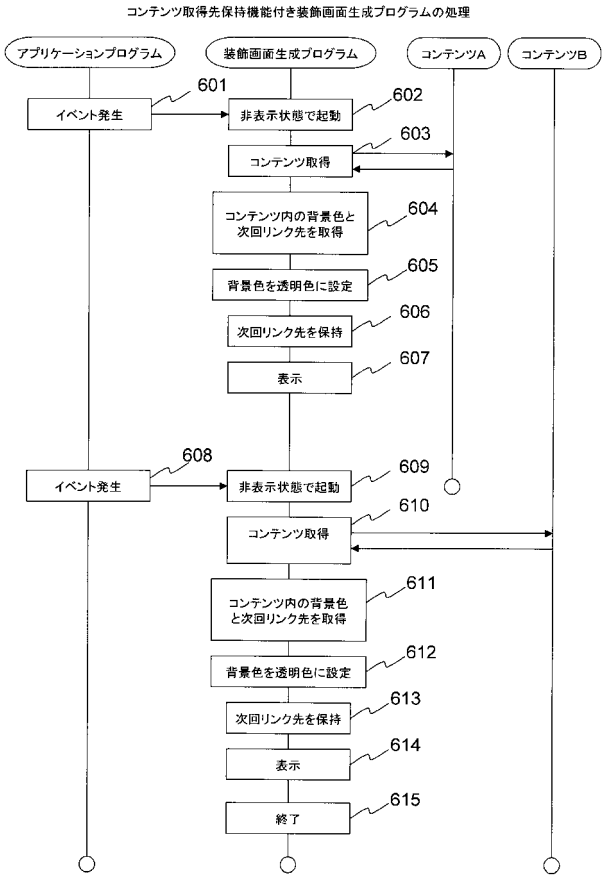
【図４】


タイムアウト機能付き装飾画面生成プログラムの処理
アプリケーションプログラム
装飾画面生成プログラム
コンテンツ
401
イベント発生
402
非表示状態で起動
403
コンテンツ取得
404
コンテンツ上の背景色とタイムアウト値を取得
405
背景色を透明色に設定
406
タイムアウト値でタイマを設定
407
表示
408
タイムアウト経過後に終了

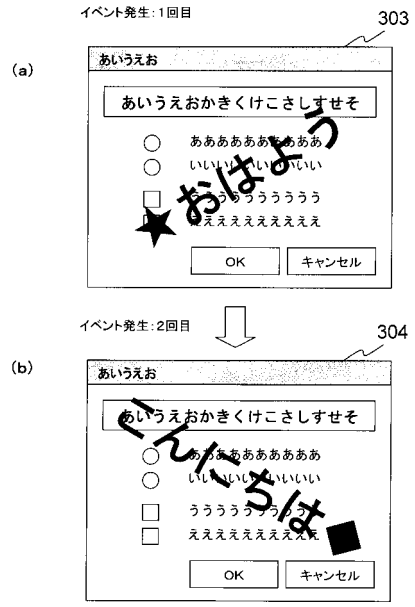
【図５】


303
(a)
あいうえお
あいうえおかきくけこさしすせそ
おはよう
OK
キャンセル
タイムアウト時間経過後
301
(b)
あいうえお
あいうえおかきくけこさしすせそ
OK
キャンセル

【図６】


コンテンツ取得先保持機能付き装飾画面生成プログラムの処理
アプリケーションプログラム
装飾画面生成プログラム
コンテンツA
コンテンツB
601
イベント発生
602
非表示状態で起動
603
コンテンツ取得
604
コンテンツ内の背景色と次回リンク先を取得
605
背景色を透明色に設定
606
次回リンク先を保持
607
表示
608
イベント発生
609
非表示状態で起動
610
コンテンツ取得
611
コンテンツ内の背景色と次回リンク先を取得
612
背景色を透明色に設定
613
次回リンク先を保持
614
表示
615
終了

【図７】


イベント発生：1回目
303
(a)
あいうえお
あいうえおかきくけこさしすせそ
おはよう
OK
キャンセル
イベント発生：2回目
304
(b)
あいうえお
あいうえおかきくけこさしすせそ
OK
キャンセル

フロントページの続き

(51)Int.Cl.	FI	テーマコード（参考）
	Ｇ０９Ｇ　5/00　５３０Ｍ	

Ｆターム(参考) 5E501 AA02 AC09 AC34 BA03 BA14 CA02 DA11 DA13 FA06 FA13
FA14 FA21 FA42 FB28